

# あなたも高教組へ

2面・全国高校生平和集会 in 焼津



第496号

2024年

4月19日

発行所

静岡県高等学校障害児学校教職員組合  
〒420-0004 静岡市葵区末広町1-4  
高教組新聞編集委員会  
http://www.s-koukyousho.jp/  
e-Mail info@s-koukyousho.jp  
TEL (054) 254-6900  
FAX (054) 254-0814  
Facebook:「静岡高教組」で検索

高教組しんぶんは組合費とカンパによって発行されており、全教職員に配布しています

## 今年度の静岡高教組のたたかいの重点 このままでは、学校が、教師がもたない！ 教育予算増、「給特法」の改善急務

静岡高教組は、3月14日に「春闘要求書」を提出、4月26日に教育長と交渉します。より働きやすい職場にするために、現場の声を寄せさせていただきます。  
「春にも中教審答申が出され、来年の通常国会にむけて給特法改定案が検討・作成される一年になります。長時間過密労働解消につながる法改正にしなければなりません。」  
教職員希望者の減少が続いています。その要因には教職員の働き方の問題があることは明白です。教職員が生活の不安なく、安定した精神状態にあって教育活動に専念できる教育環境を保障し、勤務条件を改善することが教育行政の役割であり、責任です。  
学校でも家庭でも子どもや生徒たちとじっくり向き合えるゆとりと時間を保障するための施策を求め春闘要求書を提出します。」

### 春闘要求書 重点項目

1. 教職員給与は、専門性や現場の困難さ、時間外業務量等に見合う適正な水準を確保すること。
2. 教職員人事評価制度結果を賃金・処遇に反映させないこと。
3. 「超勤限定4項目」（「生徒の実習関連業務・学校行事関連業務・職員会議・災害等での緊急措置など」）以外の時間外労働を命じることは違法とする給特法の趣旨を徹底すること。
4. 勤務時間管理システムのデータをもとに、長時間労働解消の方策を示すこと。
5. 常勤職員の持ち時間数を週当たり16時間（LHR、総合的学習の時間を含む）特別支援学校25時間以下とすること。以上のために、給特法の改正と定数増を国に要望すると共に、業務をサポートするスタッフ、支援員などを拡充すること。
6. 部活動の全員加入制や全員顧問制について他県の状況を調査し、部活動のあり方を見直すこと。
7. 専門性の蓄積が必要な特別支援学校における「10年3校」などの異動方針を見直すこと。異動に際しては、「生活や健康」の配慮と共に、「希望と納得」「教員本人の教育計画や特性」などを尊重すること。
8. 精神疾患などで長期療養する教職員の増加の原因を分析し、「安全 配慮義務」として施策を講じること。業務に起因する事例については、公務災害申請をやすくすること。
9. ハラスメント「初動対応マニュアル」を改善し周知徹底すること。教職員に対して、「パワハラ・セクハラアンケート」を実施するなどの有効な手段を講ずること。専門的な第三者による指導が行われる体制を整えること。
10. 厚労省の「治療と仕事の両立支援ガイドライン」を活用し、治療しながらでも、働きやすい環境を整備すること。「治療としての休養」も特別休暇に加えること。
11. 任期付職員の経験を評価し、本人の希望に沿った採用・任用を行うこと。
12. 非常勤講師の時間給単価を専門性に見合った額に引き上げること。期末手当の支給要件の緩和を行うこと。超過勤務には相当する賃金を支払うこと。超過勤務をせざるを得ない非常勤講師の実態を調査すること。
13. 再任用、定年引上げに伴う60歳超の賃金水準を改善すること。賃金水準に見合った業務量・定数とすること。
14. 年度当初の「未配置」の人数を明らかにし、早急に改善すること。
15. 定員割れた学校であっても独自に少人数学級で運用し、教職員の定数は維持すること。
16. 事務職員が司書業務に従事する時間を調査し、改善のための施策を講じること。
17. ICTの端末の整備は公費負担とし、活用方法を一律に強制しないこと。保護者の経済的負担を増大させないこと。教職員の業務を支援するスタッフを拡充すること。
18. 浜松特別支援学校および分校（浜松江之島高校）の設置場所を再検討すること。
19. 妊娠中の教職員の勤務軽減措置を拡大すること。「育児のための短時間勤務制度」の取得、利用を促進すること。時差出勤制度を導入すること。
20. 育休代替職員の配置（「先読み加配」）の対象・期間を周知し、さらに拡充すること。
21. 「生命（いのち）の安全教育」を周知し、実施すること。

## 主張

この3月の入試で大きく変化したことは、合格発表のシステムである。中学生がインターネットを使って各自で合格を確認した後、その日のうちに本人または代理人が各高校まで書類をとりに行くというシステムである。昼の12時に合格発表があり、そこから県下一斉に中学生が移動を開始する。高校受験の時は、臨時バスを走ら

## これでよいのか!?

仕事を休んだ保護者も数多くいたのではないだろうか、色々と疑問が残る。実際に、書類を取りに行く本人確認後、合格証書と入学書類を渡され、ものの数分で帰

## 高校入試合格発表

どこにあるのかというところだ。受験当日は、中学生が希望する高校へ行くため、移動は自己責任と言っても理解できる気がする。しかし、書類の受け渡しは、高校

また、高校側の負担も確実に増えたと言える。合格発表からおおよそ2時間ほどであるうか、本人確認、書類の受け渡し、駐車場整理など10人以上の教員

が拘束を余儀なくされた。合格発表の時期は、成績処理、要録作成及びチェックなどミスの許されない業務が立て込んである。ただでさえ、入試業務で疲弊している中、時間を奪われる業務の追加により現場への負担が増えたことは許されることではない。そして、何より、なぜこのようなシステムになったのか、詳しい説明はない。こうした改善としか言いえないシステムは即刻中止し、次回からは元のシステムに戻すべきである。

## 子育て応援カフェ

3月10日興津生涯学習交流館にて「第12回子育て応援カフェ」を開催しました。6か月のお子さんと一緒に浜松から来てくださった育休中の参加者もあり、妊娠中の働き方や、復帰に向けて保育園選びや働き方について情報交換、学習、交流を行いました。  
Uさんは6月末から産休だったため、4月当初から育休代替がついて常に一緒に授業をし、部活動も「副顧問」と配慮され、体制が万全に整えられ安心して働くことができたとお話しされました。  
現在、制度として、年度内に育休を6か月以上取得する場合は「加配」として4月から育休代替が配置されます。妊娠障害休暇を急遽とるようになった場合など代替がいくれば安心して休むことができます。しかしまだ現場では周知徹底できず、配置されないことが多くあります。  
さらに、年度内に妊娠の届け出がある場合は育休

6か月に満たなくとも4月当初から代替がつくようになれば、妊娠初期の最も大変な時期にとっても助かる制度になるはずです。今後は育休取得年度内6か月以上という条件を緩和させ4月から代替教員を配置するよう要求していきたいと思いました。  
参加した方からは「どんな風に働くのか、どうい制度があるのか、保育園はどうかなど不安なことについて、先輩先生の話が聞けて、自分の中でもイメージがしやすくなりました。復帰が楽しみにになりました」などの感想をいただきました。  
前回にも、「仲間や経験者と情報交換をし、不安が減ったことで復帰に向けて前向きな気持ちになりました」という声がありました。同じ立場の仲間と話をする機会、権利についてしっかり学ぶ機会は大切だと実感しました。  
次回開催は7月28日ころを予定しています。是非御参加ください。  
(女性部)

**賃金手帳 2024年度版**  
給与制度、諸手当、給料表などわかりやすく解説しています。



100円でお分けします。

## 視座

新学期が始まりました。早くも計画通りに進まず、あたふた。そんな状況が各地で見られていることでしょう。それもそのはずで、生徒の顔を見る前に立てた計画ですもの。そもそも、今までの人生が計画通りだなんて方はおられないのではないのでしょうか。かく、おエライさんがお好きなPDCAサイクル。P（計画）D（実行）C（チェック）A（改善）、人類は未だかつて完璧な計画を立てたことがありません。ゆえに、初手から怪しいものです。そもそも、これは工場のものづくりの理論。変化のほとんどの環境下でのこと。学校は人づくり、環境が常に同じなんてことはありません。計画をきっちり立てすぎると、計画通りに生徒が動かず、イライラしがち。そう、いい加減が良い加減なんです。適当が適切なんです。旅行は、計画通りに目的地に行き帰ってくる行為。一方、旅は、だいたいの方角は決まっていますが、出発したら行き当たりばったり、出会いを求める行為。一年先の目的地まで決めてあるシラバスは、旅ではあまり役に立たないでしょう。ある知識人は、シラバスは教育の自殺行為とまで言います。OODAシステム、まずは状況を観察（Observe）、進む方向を決め（Orient）、即決（Decide）、即行動（Action）として、また観察……。PDCAより実践的。行き先が決まっている「旅行」ではなく、とにかく一歩踏み出し、前向きに、時に寄り道もして、新たな出会い「旅」のようにな年になる予感がする春です。





# 誰もが幸せに暮らせる社会を 築きあげるために 事実を学び、自分事として語り継ぐ 全国高校生平和集会 in 焼津



3月27日28日、ビキニ被災70年の節目に、「全国高校生平和集会」を焼津で開催しました。埼玉、東京、静岡、愛知、広島、沖縄の1都5県から109人の中高生、教師、市民が参加し、第五福竜丸やビキニ水爆実験による被災を学び、どうしたら誰もが幸せに暮らせる社会を築けるかを話し合いました。

「あなたに感じますか手のひらの温もりが 人のくやし涙が 生き続ける苦しみが…」

山本さとし作詞作曲の「ヒロシマの有る国で」の歌声がキャンドルファイヤーの灯の中、響きわたりました。多くの高校生が歌詞を見ずに歌っていました。東京からのバスの中で、皆で練習してきたそうです。



田空襲、藤枝北高校演劇部による「満蒙開拓という名の侵略」などの朗読劇を発表。

初日27日の昼に焼津文化センターに合流、歴史民俗資料館で「ビキニ被災70年特別展」を見学。学生たちは、学芸員のお話を熱心に聴き、無線長であった久保山愛吉さんの手記や入院中に家族にあてた手紙に見入っていました。

東京は、ロシア大使館、イスラエル大使館行動や、東京大空襲戦災資料センターの見学、「声をあげよう！高校生署名」の取り組み。

その後、当時、第五福竜丸が係留されていた焼津港、久保山愛吉さんが眠る弘徳院を訪れ、各県代表が献花。

沖繩から、米軍基地問題や南西諸島の軍事基地化の学習、ひめゆりの町、フィールドワーク、辺野古新基地建設反対のとりくみ。ビキニ事件では沖繩にも多くの被災者がいたにもかかわらず軽視された事等が報告されました。

焼津青少年の家に移り、静岡の高校生たちによる開会の言葉、基調提案の後、各県の活動を報告しました。

広島は、朝鮮高級学校との交流、強制労働で多くの犠牲があったことやガザ問題の学習、原爆ドーム前「Stop Genocide」戦争反対の意思表示や街頭署名。

静岡から、平和展に参加した焼津中央高校音楽部のオペラ・合唱、焼津高校演劇部「ばらの祈り」、島田樟誠高校演劇部「島

愛知は、ナガサキツアーでの被爆者からの聴き取り、名古屋空襲の学習等。埼玉からは、関東大震災時のデマによる朝鮮人虐殺事件を聞き取り、朗読

劇にし、韓国でも上演したこと、3人独立運動で万歳（バンザイ）デモを先導し、17歳で獄死したユガンソン（柳寛順）と、植民地朝鮮で不遇な生活を強いられ独立運動に深く共感した金子文子（当時16歳）、この二人がもし出会っていたらどんな対話をするか、日本の加害の歴史に向き

各地の歴史や抱える課題を学び、我が事としてとらえて行動する報告の数々に、大きく視野を広げられました。



## グループ学習会

2日目はグループ学習交流会。7グループに分かれ、それぞれ講師の方のお話を伺った後、討論しました。講師は長年平和活動に献身してきた方々です。

杉村征郎さん ビキニ事件当時、自宅のすぐ近く

めにマーシャルに移住。グローバル被害を訴える。岡崎航平さん 高校時代からエバグリーンに参加し、韓国、福島、宮城、高知に行き、現地で学習と交流。足元の生活から平和を語り、つくり出す農業青年。愛吉さんのばらの苗木を粕谷さんと広める。

劇にし、韓国でも上演したこと、3人独立運動で万歳（バンザイ）デモを先導し、17歳で獄死したユガンソン（柳寛順）と、植民地朝鮮で不遇な生活を強いられ独立運動に深く共感した金子文子（当時16歳）、この二人がもし出会っていたらどんな対話をするか、日本の加害の歴史に向き

成瀬賢さん 焼津市在住。教職員時代、福竜丸事件を平和教材として教務だと学び合い、実践。退職後、平和探訪のガイド役、3人ビキニツアー委員。

河村恵子さん 第五福竜丸乗組員大石又七さんの義妹。重度の障がいを持つ二人の息子さんを育てながら、姉信子さんと又七さんとの出会い、当時の状況、自身の原発関係の仕事や核の脅威を語り継ぐ。

粕谷たか子さん ビキニ水爆被災を海外に知らせる取り組みを長年継続。絵本「ばらの祈り」の灰を越えてを日英語で出版、昨年、DVD化。アメリカ人監督の映画「西から昇った太陽」の制作を手伝う。

レウイ千穂さん 焼津市生まれ、20回以上マーシャル諸島に行き核被災を調査。マーシャルの方と結婚。2024年3月初

く第五福竜丸が係留され、騒ぎを目の当たりにし、中学の友人と共に原水爆反対署名を開始。映画「第五福竜丸」にエキストラ出演。現在、大学で特別講座を持ち平和を語る。



テーマは「何故、平和活動に関わったのか」「核兵器廃絶と戦争のない世界を実現するために私には何が出来るか」「仲間をどう広げるか」。講師の先生のお話に触発され、時間がいくらあっても足りない程、活動の悩みや様々な思い、具体的な提案がなされました。

参加した高校生から「第五福竜丸などの模型や複製資料を実際に見て、今まで学んできた知識と重ね合わせて想像し、当時のことを生々しく感じることができた」

「広島と長崎、第五福竜丸、高知やマーシャル諸島の人々だけでなく沖繩の漁船も被災したが米軍統治下で知らされなかったことを伝えていきたい」

「沖繩戦から基地問題、核兵器など詰め込んで報告したので、県外の人に伝わるのか不安もあったが、思った以上に自分ごととして考えてくれた」

「互いの意見を認め合い話し合うことができる高校生平和ゼミナールのこの雰囲気は私の好きなの。学校ではそれが無いのが残念」

などの感想が寄せられました。（山口良一 清流館高校）

その後、林克さんから浜岡原発についてのお話しを伺い、原発について皆で考えました。

『リニアはなぜ失敗したのか』 緑風社 『土の声を』 岩波書店

## 話題の本を読む14

リニア中央新幹線の問題点について、静岡県民にはよく知られている。大井川水系の枯渇、南アルプスの環境破壊、残土（有害土）の処理方法、大地震への対応方法、JR東海の経営状態悪化、莫大な電力消費（新幹線の3〜4倍）などだ。

同時に山体の崩れが生じることが危惧され、南アルプスの山体が崩壊する？知りませんでした。後者では、2011年の協議会で、市側が「地元のことを考えないと事業が止まりかねない」というと、JR東海側は「止まるとは何事だ」と怒鳴ったという。JRは脅せば地方は抵抗しないと思っているのだ。また、飯田市は在来線の飯田駅と結ぶことを考えて誘致したのだが、かけ離れた場所に新駅が作られてしまふことになってしまった。さらに長野新駅の土地確保のために、予定地に住む約190世帯が半ば強制的に移住させられた。移住を迫ったのは県と市の職員である。補償額は元いた敷地や家屋の水準には至らなかった。移転を免れた世帯も毎日ダンブが往來して土埃に困惑している。旅館など観光関係の事業者は、完成までもつのか不安に駆られている。さらに長野では工事残土の70%の処分場が決まっていない。

このような問題は他の都県でも起こっている。ただ、他の都県では知事がリニアを礼賛しているのに、静岡県内では工事だけが理由で遅滞しているのはない。（Y）

前者で私が驚いたのは「南アルプストンネルの危険性」で述べられたことだ。「この3000m超の山並みの特徴は毎年4mm高くなっていく」「トンネル工事で地下水脈が常時大量に流れ出し、山は水収支がマイナスに転じ、砂漠化します。森林は枯れ、はげ山へと変貌していくのです。」

「リニアはなぜ失敗したか」 川野隆生著 岩波書店 『土の声を』 岩波書店

